



出張カフェ「文庫&カフェむつみ」@獨医祭

おなじみの壬生町地域カフェ、「文庫&カフェむつみ」が今年は獨医祭に1日限定で出張カフェをオープンしました！



カフェの様子

カフェに必要なすべての物品や材料はみんなを持ち込んで、できる限りいつものカフェの様子ができるような、居心地のいい、ほっとできる空間を教室に再現しました。スタッフの住民の方が丁寧に作った手作りケーキと、コーヒー、紅茶、お茶などの飲みもの各種でおもてなしし、当初の予想をはるかに超える数のお客さんに楽しんでいただきました。いつもとは違うお客さんの多さに、スタッフのみなさんもかなり喜んでくれていましたが、学生や子育て世代、子供たちなど、いつもはカフェに来られないような人たちにも楽しんでもらえ、大変ながらも大きなやりがいを感じることができました。

地域カフェは住民の方々によるボランティアですので、もちろんサービスが行き届かないこともあります。バタバタしてオーダー取りやお菓子・飲み物の提供が遅れてしまうこともありました。それらに対して苦情が出るどころか、お客さんも一緒にお皿を下げてくれたり、待ち時間にスタッフの方々とお客さんが交流を楽しむなど、地域カフェならではのあたたかいつながりが自然に生まれていました。これもカフェスタッフのみなさんの、「一人一人を大事におもてなししたい」という一生懸命なやさしい思いが連鎖した結果だと感じました。



カフェスタッフのみなさん&助っ人学生



健康相談の様子

今回は、忙しい中6人の研究室配属メンバーも手伝ってくれました。今泉君（5年）、石井さん（4年）、猪野さん（4年）、加納さん（4年）、野々山君（4年）、松本さん（4年）ありがとうございました！！実際に地域の方々と協働し、関わりあうことで、地域活動について学び、何かを感じてくれたらうれしいです。

今回のような出張カフェを通して多くの方々（高齢者以外にも）に地域カフェの存在を知ってもらい、文庫&カフェむつみのようなカフェが多く地域で展開されるよう、今後もいろいろ考えていけたらと思います。

「オレンジリボンウォーキングinみぶ」開催！

11月の児童虐待防止推進月間にちなんだ活動として、今年は「オレンジリボンウォーキングinみぶ」を11月23日（土）にわんぱく公園・おもちゃ博物館で実施しました。

児童虐待は各家庭の問題として外から見えずらく、周辺住民も直接かわりにくい難しさがあります。虐待をしてしまう親は社会から孤立していることが多いと言われますが、孤立や孤独を本人たちや行政の努力だけで解決することには限界があります。そのような中で地域の役割は非常に重要だと感じています。

今回の活動では、南犬飼中の福祉委員のみなさんとオレンジリボンを作成し、さらに住民の方々にもご協力いただき、がんばるみんなを応援するメッセージ（子育てを頑張るパパママだけでなく、すべての人を応援するメッセージ）を書いていただきました。自分を応援してくれる人が地域にいると感じることで、自分が住む地域に安心感を抱いてもらえたら、孤立や孤独の感情を少しは防げるのではないかとの思いで実施しました。大変多くの方々にご協力いただき、合計700以上のリボンとメッセージを集めることができました。そのみんなの思いを、11/23わんぱく公園の来場者の方々の一つ一つお渡し、児童虐待防止の啓発とともに地域のつながりづくりの活動を行いました。当日は、住民の方々、中学生、講座からは春山先生、松原先生一家+オラフ、今井さんにもご参加いただき、グループに分かれて歩いて回りました。

今回は、4年生の医学研究実習期間と重なったこともあり、私の班に来てくれた、研究室配属メンバーの猪野さん、加納さん、野々山君、松本さんには、この活動を手伝っていただきました。みなさんありがとうございました！

松本 怜 私は、研究室実習にてわんぱく公園で行われたオレンジリボンウォーキングに参加しました。まずは虐待防止の啓発運動のため、南犬飼中学校の中学生とオレンジリボン作りを行いました。中学生に虐待について知ってもらうことができ、気軽に相談できる場所や電話があることを紹介できてよかったと思います。また、ウォーキングではリボンやメッセージを通して、地元の中学生と町の皆さんが繋がることができた良い機会だったと思います。さらに、小山市でパープルリボン運動をしているという方々にも出会い、このような啓発運動の大切さを実感しました。私たちは、このオレンジリボンウォーキングを通して、壬生町のソーシャルキャピタルの促進に繋がったと考えられ、とても良い経験になりました。

猪野 文音 研究室実習の授業で阿部先生の講座に入り、オレンジリボン運動に参加しました。今回の活動に参加するまでオレンジリボンの存在を認識しておらず、この活動を通してオレンジリボンについての考えを深められたと思います。リボンは近くの南犬飼中学校の中学生と一緒に作ったのですが、普段中学生と関わる機会がないので、一緒に作業したり、会話したりすることで交流ができて楽しかったです。活動当日は壬生町の方や、先生方とともに、わんぱく公園やおもちゃ博物館の来場者にオレンジリボンを配りました。一緒にリボンを作った中学生も参加してくれて、来場者には子連れのかたも多く、オレンジリボンと児童虐待についてたくさんの人に知ってもらえたので、少しでも壬生町に貢献できたのではないかと思います。後日、住民の方が喜んでくれていたという話を聞いて、今後も壬生町の輪を広げる運動ができたらいいなと思いました。



中学生に虐待について説明する様子



イベント参加者のみなさん
春山先生、松原先生、今井さん、
ご参加ありがとうございました！

文庫&カフェむつみや今回の地域活動など、地域住民を巻き込んだ、住民の住民による住民のための活動は、どれもその地域のソーシャルキャピタル醸成に大いに寄与し、健康なまちづくりへとつながります。今後もこのような活動を通して、公衆衛生の視点からのまちづくりをみんなと一緒に考えていければと思っています。



編集後記：発行開始から1年を過ぎ、徐々に発行が滞りがちになっています・・・来年は少し頑張りたいと思います。みなさんメリークリスマス&よいお年を！